

府立枚方支援学校



テーマ:RV-PDCA サイクルを活用した授業づくり

概要

府立枚方支援学校では、これまで初任の教員による研究授業において、振り返りシートを用いての授業改善を行ってきました。さらに、今年より、授業支援コーディネーターを中心に公開授業を実施し、公開授業見学シートを用いての授業の提案を含む、授業改善に取り組んでいます。これまで、RV-PDCAサイクルを活用した授業づくりについて、個々の教員にその取り組みを委ねていました。今年度より、府立枚方支援学校の授業改善のモデルケースとなる、指導と評価の一体化の観点から、PDCAサイクルによる授業改善の提案を行うことをパッケージ研修のねらいとし、研究部が中心となり研修をすすめています。

パッケージ研修支援の全体会では、自校の課題と研究テーマを全体共有し、さらに教科・単元の評価規準を再確認する機会として位置づけ、研修を行いました。また、校内研修実施における協議の準備や設定、進め方等を含む、より良い研修の在り方についても再考することができました。事前授業や研究授業の学習指導案の作成については、授業者と子ども一人ひとりの目標と評価等を再確認し、指導と評価の一体化につながる目標及び評価規準の設定、PDCAサイクルに基づいた授業改善を行いました。魅力的な教材を選定し、授業時の子どもの様子や授業後の評価についても、客観的な視点からの授業改善が行われていました。

実施

スケジュール

Research

5月16日(月) 打合せ

Vision

7月19日(火) 全体会

Plan

7月下旬~ 学習指導案の作成・検討

Do

9月12日(月) 事前授業・授業後の協議

10月 3日(月) 研究授業・授業後の協議

10月11日(火) 研究協議

Check & Act

10月中旬 アンケート集約

打ち合わせ 及び 全体会

5月16日(月) 打ち合わせ及び7月19日(火) 全体会について

今年度の府立枚方支援学校の学校経営計画の内容を踏まえ、自校の課題である「PDCAサイクルを活用した授業改善については、各教員が個人で取り組んでいる実態」の改善を図るために、本研修支援のテーマを「RV-PDCAサイクルを活用した授業づくり」とし、具体的・実用的なモデルケースの提案に向けての打合せを行いました。

全体会では、「日々の授業改善とRV-PDCAサイクルの活用」をテーマとした講義とグループワークを内容として実施しました。講義では、これまでの取り組みと自校の課題を共有しました。また、学習指導案と各回授業の児童生徒の評価を示した表を用いながら、授業改善につながる具体的な評価の提案と、グループワークを通して「計画→授業→記録→改善」の実用的な工夫と改善案について検討する機会としました。最後に、指導主事より、グループワークの内容を踏まえた具体的な評価・記述と、学習指導案の作成について講義・講評を行いました。



研究授業

学年・教科： 中学部第3学年 「国語科」
 単元名： 「ディスカッションをしよう(昔話法廷)」

研究協議の
ポイント

本単元は、学習指導要領中学部「国語科」第1段階の内容を踏まえて設定されています。NHK for School『昔話法廷』の内容である「カチカチ山」や「さるかに合戦」、「浦島太郎」等、生徒たちに馴染みのある昔話を教材として選定し、生徒たちがこれまで学習してきた「読む力」と「書く力」を生かしながら、教材の魅力である裁判員の立場からのディスカッションを通して、生徒の課題と考える「聞く力」と「話す力」、コミュニケーション力を育む内容となっています。選定された教材は、国語科だけではなく、社会科や特別の教科である道徳科、総合的な学習（探究）の時間としても魅力のある教材です。様々な答えが想定されるディスカッションを通して、単元の目標とする力を生徒たちがより良く身に付けることができるように、RV-PDCA サイクルの視点で授業計画を見直し、生徒たちの実態（評価）を基に授業改善を適宜図りながら、授業を実施していました。

協議のポイントは、単元計画にある各回の授業で設定されている本時の目標に対して、「生徒一人ひとりの目標をどのように評価していくのか」といった、学習評価を授業評価として捉え、活用することのできる具体的な授業改善のモデルケースの提案を行うことです。

成果

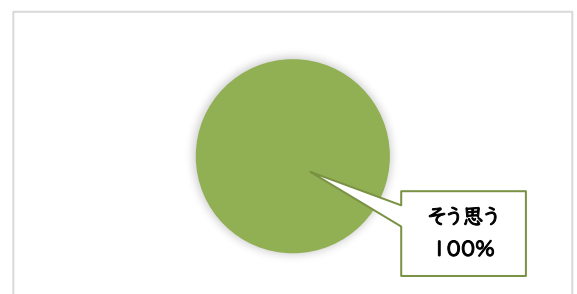
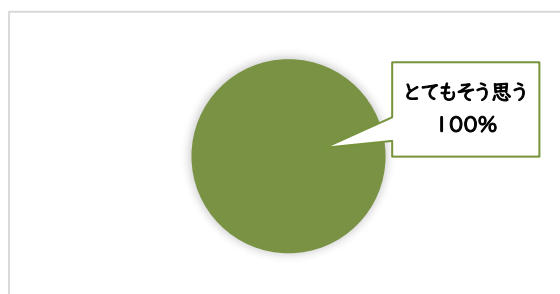
研究協議より

研究授業を R(実態把握)→V(共通理解)→P(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)のサイクルで見直し、「指導と評価の一体化」の観点から、より良い授業改善を図っていくための実用的で具体的な評価の在り方について協議することができました。授業改善のモデルケースについては、今年度の取り組みを生かしながら、次年度以降も研修や授業公開、普段の授業などを通して、府立枚方支援学校としての授業改善のモデルケースを構築しながら、継続的な提案を期待するものとなりました。

アンケート
結果

① 学校のニーズにできていた

② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- 研究授業の担当者として学習指導案の作成や授業計画を進め方など、自分自身の評価方法や目標設定についての知識・認識の低さや授業スキルの未熟さに気付くことのできる機会であった。
- 事前授業の振り返り会や個々にいただいた助言を基に、少しずつでも授業毎の内容改善を図ってきたい。
- 校内全体研修会を実施することで、授業改善に関わる記録や情報共有などの方法は異なるが、日常的に各教科・授業において各先生方が工夫し、取り組まれていることが分かった。
- 全教員を対象とした研修として、次年度以降も授業改善についての取り組みを継続していくについては検討中であるが、本研修支援を活用した継続的な研修体制の確立については、他校の活用事例等も参考に考えていきたいと感じている。